

学校法人 聖ヶ丘学園 聖ヶ丘教育福祉専門学校附属 育和幼稚園

2022年度（令和4年）自己評価結果公表シート

育和幼稚園では、本園の教育理念、教育目標達成に向け、2022年度の学校評価（自己評価）を実施しましたので、以下のとおりご報告します。

【自己評価】

- (1) 対象者：常勤教職員20名
- (2) 実施日：2022年7月26日～2023年1月31日（1学期・2学期 各1回実施）
- (3) 実施方法：職員全体会議において、常勤職員に学校評価 幼稚園チェックリストを配付し、幼稚園の取組み状況や 自分自身の取組み状況について評価を求めた。

1. 学校の教育目標

事業の目的：本園は、学校教育法第22条及び第23条に基づき、義務教育及びその後の教育の基礎を培うものとして、幼児を保育し、幼児の健やかな成長のために適当な環境を与えて、その心身の発達を助長することを目的とします。

教育方針：1. 遊びを中心とした保育

2. 子ども一人ひとりの善さを伸ばす保育

3. 主体的で対話的で深い学びにつながる保育

上記を方針として、遊びを通して社会性、想像力を育み、生涯にわたる人格形成の基礎を培う役割を担います。

教育目標：○遊びを生み出し、面白がり夢中になって自らを創りだすことができる子ども

○自分のことを大切にし、人の善さや思いやりに気づく子ども

○基本的な生活習慣と態度を身に付け、自ら考え、自信をもって行動しようとする子ども

2. 本年度の学校評価の具体的な目標や計画

新年度に向けた園内研修において、2022年度の事業計画及び基本方針を職員と共有し、園の教育及び教育方針、教育目標のもと、評価項目に従って自己点検、自己評価を実施する。昨年度より日々の保育について具体的に保育者自身が保育の振り返りができるように自己評価書を活用した内容で自己点検を行った。保育者自らが客観的に自園を見る目を養い、施設の改善、教育及び保育内容の改善に向けた取り組みを目指していくためのものである。また、少子化の現状を意識した取り組みを踏まえ職員全体が園の運営について共通理解を深め、さらによりよい園づくりの足掛かりとしたい。

3. 評価項目の検証結果及び改善策

評価項目	理由
I 「保育の計画性」についての検証結果及び改善策	「教育方針」は、ホームページをニューアルする際に、見直しを行い、新たに「教育目標」を具体的な内容として作成した。年度途中の見直しとなったため、次年度に職員間で共有していく。 また、「教育課程」「指導計画」などの保育の計画については、幼稚園教

	<p>育要領を基本として、育和幼稚園独自の教育課程を編成し、指導計画を作成している。指導計画はウェブ式指導計画が職員の中で定着しつつある。子どもの姿（実際の姿又は予想される姿）から保育者の願いや思い、そこに必要な援助を書いているがウェブ式にすることで、保育の流れや繋がりが明確となり担任以外の職員（フリー）とも、子どもや保育についての情報共有が行いやすくなっていることを感じる。但し活動内容（製作、行事等）によっては、時系列記述式（文章で表記）等計画の表現方法は自由で、振り返りを行いやすい形式に任せている。今後はICTも取り入れ、指導計画作成の負担を軽減する支援システムを構築していきたいと考えている。</p> <p>環境構成においては昨年度も課題としたが、子どもが自ら活動を展開していける場や空間の構成、子どもの発想を柔軟に取り入れるなどを望むが、保育者の経験年数や保育観によって実践に差がみられていた。学年会議において担任が情報共有を行い報告をし合うが、踏み込んで課題として捉えまでに至っていない。互いの保育を参観できる期間を設けるなどしたいが、なかなか時間の調整ができていない。今後、時間の捻出のために、必要な業務と不要な業務を選別し業務削減とする事や必要な業務の簡素化の検討を行い、保育の計画や環境構成、振り返りを深めるためのノンコンタクトタイムを確保したい。次年度よりICTを導入して業務効率化を図る予定である。</p>
<p>II 保育の在り方、 幼児の対応</p>	<p>保育の在り方については、教育方針を基本に主体的で対話的で深い学びにつながる保育を意識し進めている。</p> <p>幼児への対応については、子ども理解をベースにその姿のうちにある心の動きを推察し、活動や発達の見通しを予測し子どもたちの今を考え保育を進めてきた。個から集団へと広がりをもった保育の展開を目指す。昨年度と同様に保育者の力量に差がみられることは否めない。保育者一人ひとりが保育を見つめ直していくこと、また、互いに忌憚ない意見を交わしながら幼稚園の質全体を高めていくことを再度注力したい。</p> <p>健康と安全への配慮については、コロナ禍の影響で常に感染対策を意識した生活を行ってきた。子どもたちの視診、検温や手洗い、マスクの使用などを徹底し、家庭と連携をとりながら健康観察を行い、園舎内の換気、環境消毒については、県などの基準に則った対応を行った。また、けがや事故の対応は、職員の適切な対応、管理職への報告が徹底しており、保護者への連絡についても丁寧かつ迅速な対応である。危険箇所は気づいたらすぐに共有し、園内で早期に修理されている。今年度は、網戸に気づかず衝突するなど繰り返し修理することが続いた。危険の予測について子どもと共に考えながら安全な使い方や遊び方について伝えた。職員間で温度差があるため、全体で共有していく必要がある。</p>

<p>III 「保育者としての資 質や能力・良識・適 性」についての検証 結果及び改善策</p>	<p>保育者は、専門家としての知識や技術を身に付けることが必須であることから、当園では外部研修の参加、園内研修を充実させ、専門家として意識できるように努めている。良識やマナーの捉え方は、世代によって多少の差異があるが、幼稚園という教育機関であることを理解した上で、子どもや保護者、同僚への態度や対応は良好である。また、組織の一員としてあり方については、職員は自分の意見を述べ他者の意見を聞き、協力し合い職務を遂行している。子どもを真ん中に保育の語り合いができるような関係性があり、職員全体がひとつのチームであることを理解している。節度をもった職員が多いため、プライバシーは守られている。課題は、職員間で進めている『語り合い』の時間がなかなか捻出できないことである。</p>
<p>IV 「保護者への対応」 についての検証結果 及び改善策</p>	<p>在園児の保護者への対応については、各家庭の実態を踏まえ、保護者の気持ちを受け止め相互の信頼関係を大切に支援している。担任や職員は、保護者から要望や意見についても耳を傾けた対応を行い、管理職への報告も良好である。幼稚園は保護者へ電話で報告することが多いため、寄り添いながらもできるだけ簡潔に要領よく対話することが求められるが、経験年数などによっては対応の違いが見受けられるため、必要に応じて管理職や各学年のリーダーがアドバイスをを行っている。今後研修を通して保護者対応の基本を学ぶ必要がある。また、今年度は園児のことや保護者自身のことなど専門機関と情報を共有するケースが多かった。今後も必要に応じ、専門機関との連携を図っていきたい。</p> <p>園内の未就園児向け子育て支援は、親子が定期的に登園するプログラムを提供した子どもの保育と子育ての悩みやなど相談に応じる保護者の支援を行った。</p>
<p>V 「地域の自然や社会 とのかかわり」につ いての検証結果及び 改善策</p>	<p>地域の自然・人々の関わりについては、秋には年長児がお楽しみ会を計画し、地域の店舗に出向きバーベキューの材料やアイスづくりの材料など購入する機会があった。お店の方やお客さんに挨拶をしたり、現金を支払う経験ができた。お店の方の温かい対応で子どもたちの自信につながった。コロナ禍の影響で、今年度は地域の高齢者交流・特別養護老人ホームやケアプラザへの訪問、また、地域の方との交流は中止となったが、2月には幼小連携が行われた。常盤台小学校に行き学校探検に参加したり、ゲームを行うなど小学生と直接交流ができて、小学校入学への期待が膨らむ機会をいただいた。今後「学びや生活の基盤をつくる幼児教育と小学校教育の接続について～幼保小の協働による架け橋期の教育の充実～」が進んでいくため、幼児教育から小学校教育への接続が円滑に進むよう幼稚園と小学校の職員同士</p>

	<p>の連携が不可欠である。</p> <p>地域への開放と支援については、コロナ禍が落ち着いたころには、見学会や園庭開放の機会が増え、地域の親子が参加し広い園庭で思う存分身体を動かしたり、小動物のかめと触れ合うなど園内の環境を活用した。今年度は、地域の子育て支援センターや子育て支援拠点などに出向く機会を増やし、遊びの提供やお話し会や子育て相談を行うことができた。</p>
<p>VI 「研修と研究」についての検証結果及び改善策</p>	<p>職位や職務内容に応じて、各職員が該当するキャリアアップ研修や横浜市、幼稚園協会、保土ヶ谷区が開催する研修に参加し、必要な知識及び技能を身につけ保育の質の向上に努めた。キャリアアップ研修参加受講対象者7割程度まで終了済となった。また、園内研修をさらに充実させて外部研修及び職員が受講した研修を発表する機会などを設け、共通理解を図っている。今年度は、～保育・教育の実践の質向上 応援プロジェクト～『～探究心を育む「遊び」研究会の研究委員プロジェクト』の研究委員に職員1名を推薦したところ委員として選考され、1年間今日的課題としての「子ども主体の遊び（学び）」「主体的・対話的で、深い学び」について取り上げ、年間を通して研究を行ない、成果を発表した。他の職員も研究について興味関心が持てる環境を整え、挑戦してほしいと願う。また、職員一人ひとりが積極的に自己研鑽をする人材を育成することが求められることを感じている。</p>

4. 本年度の学校評価の具体的な目標や計画の総合的な評価結果

結果	理由
B	<p>保育者一人ひとりが学校評価の主旨を理解し、各自適切に自己点検、自己評価に取り組んでいる様子が見られた。評価項目のⅠの保育の計画性については、昨年度より、評価が下がるという結果となった。職員にもよるが、考察を深めれば深めるほど子どもにとってはどうだったのかと振り返りの質が深くなり、評価が厳しいのではないかと感じた。この項目は日々の保育内容を問われる設問チェックリストであるため、保育の計画や環境について職員と共に検証し深めていく必要を感じた。Ⅱ保育の在り方、幼児の対応については、各職員ポイントが高く、子ども理解を中心に研修を行ってきた成果であると感じた。日々の保育の中で子どもの読み取りや協働作業者として遊びの援助や心のよりどころとして子どもたちに関わっている。Ⅲ「保育者としての資質や能力・良識・適性」及びⅣ「保護者への対応」については、いずれも高評価で、特に保護者対応については、丁寧に保護者と関係性を取りながら、園内でも情報共有しながら進めている日々の姿からも安定した対応ができる職員が多い。Ⅴ「地域の自然や社会とのかかわり」については、1、2学期はコロナ禍の影響もあったため、評価が低かった。平常の暮らしに戻る方向であるため、今後は地域や社会とのかかわりを増やしていく予定である。Ⅵ「研修と研究」については、今年度『～探究心を育む「遊び」研究会の研究委員</p>

	<p>プロジェクト』の研究委員として研究した実績から他の職員へ広がっていくことを望みたい。</p> <p>当園の自己評価は、保育の質の維持向上を目指すために、子どもの育ちや学びの姿を語り合い、開かれた同僚性の形成につながることを目的としている。</p> <p>園として、質の高い保育の維持・向上のためには、実践につながる「自己評価」が不可欠であり、日々の保育（記録や計画）を通して「自らの保育実践を振り返り」や「専門性の向上や保育の改善」につながることを今後も職員間で共有していきたい。さらに、日々の自己評価を園内研修（事例検討等）につなげ、園の質の維持向上となるよう目指していきたい。</p>
--	---

5. 今後取り組むべき課題

課題	具体的な取り組み方法
ICTの活用	2023年度4月より導入するため、業務の効率化とペーパーレス化の推進が可能となった。実践において職員が具体的に活用できるよう操作に慣れ円滑に進むようにしていく。
安定的な園児募集	園児数減少のため、地域へPR活動、小規模保育施設との連携施設設定による園児の獲得、未就園児の活動や子育て支援を通しての広報戦略の継続と充実、園庭や園舎を定期的に地域開放し、地域活動拠点施設として機能を拡充していく。
課外教室の実施	空き教室を活用し、保護者の要望に合った課外講座の実施を行う。
満3歳児クラスの設置	次年度以降の満3歳児クラスの設置にむけて実施計画書や近隣の情報を収集しながら検討を進める。

学校評価 幼稚園チェックリスト

A	十分達成されている
B	達成されている
C	取り組まれているが、成果が十分でない
D	今後取り組むべき課題

I 保育の計画性

1. 園の教育理念・教育方針の理解	評価				
園の教育理念や教育方針を理解している	B				
園の教育方針に共感している					
園の方針、園長の考えについて園長や教職員と話し合っている					
園の目指す幼児の姿を具体的にイメージできる					
2. 幼稚園教育要領の理解		B			
幼稚園教育要領を理解していると思う					
幼稚園教育要領について、園長や教職員と話し合っている					
幼稚園教育要領について、幼児の姿や環境の構成、教師のかかわりなど具体的な事例を想起できる					
3. 教育課程の編成			B		
園の教育課程は、幼稚園教育要領の精神をふまえて園の教育理念・教育方針にしたがい編成している					
園の教育課程を理解していると思う					
園の教育課程をもとに、保育の計画をたてている					
園の教育課程は園長が中心となり、教職員と協力しあって編成している					
園の教育課程は社会状況や子どもの実態、地域性を考慮しながら必要に応じて見直しを行っている					
4. 指導計画の作成				B	
園の方針を指導計画や保育に生かそうとしている					
指導計画は教育要領、教育課程、幼児の実態などをもとに考えて作成している					
指導計画は幼児の興味や関心、これまでの生活の様子、予想されるこれからの生活などを考慮して作成している					
長期の指導計画はマンネリ化しないよう、常に見直しを行ない、幼児の実態や周囲の状況の変化に対応できるように作成している					
短期の指導計画は子どもの実態にあわせて、自由に変更できるような順応性のあるものになっている					
指導計画は総合的な活動ができるように考慮して作成している					
幼児の生活が豊かになるような行事を、幼児の実態に合わせて精選している					
5. 環境の構成					B
安全で清潔感のある環境構成をしている					
指導計画に基づいて、幼児が主体的に関わりたくなるような環境構成をしている					
幼児が自ら活動を生み出していけるような素材との出会いを考えている					
幼児が自ら活動を展開していけるような場や空間の構成をしている					
遊びに必要な遊具や用具、素材などを質・数量を配慮して用意している					
楽しい雰囲気の中で安心して遊びこめる環境構成をしている					
幼児の動線、目線に配慮した環境構成をしている					
幼児の活動がより豊かになるように、活動の展開に応じて環境を再構成している					
幼児の発想を柔軟に取り入れて、保育室の装飾や展示を考えている					
教師の願いや意図を持って環境構成をしている					
幼児の発達や生活を見通して環境構成をしている					
季節の変化に応じた環境構成をしている					
異年齢の幼児が自然に交流できるような環境構成をしている					
6. 保育と計画の評価・反省	B				
自分の保育と計画の評価・反省は、行なうようにしている					
評価・反省は観点を定めて行なっている					
自分の保育と計画の評価・反省について次の保育と計画に生かせるように行なっている					

自分の保育を他の教師たちにも見てもらい、それをもとに検討する	
互いの保育を見せあって、検討し、評価・反省を加え、子どもの生活と自らの保育につなげている	

Ⅱ 保育の在り方、幼児への対応

1. 健康と安全への配慮	評価
朝の登園時には特に視診を大切にして子どもの体調が悪くないかを確かめている	
体調が悪そうときは静かに寝かせたり検温をするなど適切な処置を行ないすぐに家庭へ連絡している	
けがや事故には特に気をつけ、年齢に応じた適切な環境構成やことばがけを行なっている	
万一事故やけがが発生した場合は、園長に報告し、保護者に連絡をとり、医師に見てもらうなど適切な処置を行なっている	
園内に危険な個所がないかどうか、危険な遊び方はないか、活動が年齢や能力に対して危険でないかなどを常に観察している	
危険の予測される場合は、幼児たちと一緒に見たり、考えたりなどして、安全な使い方や遊び方について気付くことができるようにしている	
クラスの中の水道付近の清掃や、換気、採光、室温などに気をつけている	
トイレの清掃やトイレの使い方について配慮し、幼児にも正しい使い方を具体的に示している	
2. 幼児のみとりと理解	
一人ひとりの幼児をよく観察するように心がけている	
幼児の話をよく聞いたり、言葉にならない思いやサインを受け止めるようにしている	
幼児同士のかかわりの中で、その姿の内にある心の動きについても推察するようにしている	
見えないところで活動している幼児についても、ある程度その活動の様子を推察することができる	
一人の幼児をじっくりと見ながら、周囲にも目を配ることができる	
幼児のこれまでの姿、今の姿から、これからの活動のある程度予想することができる	
個々の幼児の発達の姿や課題について見通しを持って理解できる	
幼児同士のかかわりの姿をとらえることができる	
幼児たちがいま興味や関心を持っていることがわかる	
幼児を自分の一方的な感じ方や考え方で決めつけないようにしている	
幼児の理解のために保護者と話し合うことがある	
幼児の姿を、家庭での生活をふまえて理解している	
幼児の姿を多面的にとらえることができる	
3. 指導とかかわり	
[共同作業者として]	
幼児に合わせて同じように動いてみたり、同じ目線にたつてもものを見つめたりしている	
幼児の気持ちに共感しながら、一緒によく遊んでいる	
一人ひとりの幼児の思いを把握して寄り添いながらかかわっている	
幼児からのアイデアをくみとって遊びを深めている	
[あこがれを形成するモデルとして]	
「先生のようにやってみたい」と幼児が思うような、モデルとしての姿を心がけている	
教師らしい品位ある言葉、正しい日本語の用法を心がけている	
幼児の心を傷つけたり、人権を無視したりする言葉や態度、かかわり方をしないようにしている	
善悪の判断、いたわり、思いやりなどの道徳性を培う上でもモデルとなっている	
[心のよりどころとして]	
幼児の一人ひとりのありのままの姿を受け入れようとしている	
幼児とのスキンシップをとるようにしている	
幼児一人ひとりのよさを認めるようにしている	
幼児の話をよく聞くようにしている	
[遊びの援助者として]	
幼児が遊びを深めていくためのヒントやアイデアを提供している	
幼児の年齢に応じたわかりやすく聞き取りやすい語りかけ方をしている	
幼児が行き詰っているときに、適切な援助をしている	
幼児が自ら考えたり工夫したりできるような見守り方をしている	
幼児をほめたり、励ましたり、めあてを持たせるような言葉かけをしている	
禁止、命令、行動を急がせたり、自信を失わせることばや態度はできるだけ控えている	
“一人ひとり”と“みんな”の関係を常に考えながらかかわっている	
幼児同士のトラブルに対し、適切な対応をしている	
[その他]	
幼児の年齢や発達に応じたかかわり方をしている	
幼児の個性や性格、特徴に応じたかかわり方をしている	
幼児を無視したり、体罰を加えることはどのような場合もしていない	
幼児の家庭環境や、これまでの成育歴などを考慮してかかわっている	
4. 保育者同士の協力・連携	
クラスに関係なく、その場にいた教師が適切な言葉がけや対応をしている	
クラス的环境構成などについてもお互いにフランクに意見を交換している	
幼児のこについて常に保育者同士で話し合い、クラス、学年をこえて情報を共有している	
教職員全員が、すべての幼児についてある程度理解しているようさまざまな工夫をしている	

A

指導上配慮を必要とする幼児については、園の教職員全体で特によく話し合い、共通理解をもって、対応するようにしている
他のクラスや異年齢の幼児たちと触れ合うようなさまざまな工夫をしている
他のクラスや異年齢の幼児たちとかかわれるよう、さまざまな保育の形態を取り入れている

Ⅲ 保育者としての資質や能力・良識・適正

1. 専門家としての能力・良識・義務 〔専門家としての能力〕	評価
幼稚園教諭として専門知識や技能を身に付けている	A
より高度な専門知識や技能を身に付けようと研修している	
幼児の性格や個性を把握するよう努めている	
保護者に対し、幼児のことや自分の保育の事をわかりやすく話すことができ、保護者との信頼関係をつくるよう努めている	
仕事の手順をよく考え、能率よく行なっている	
幼児が考え、感じていることがある程度予測できる	
〔良識とマナー〕	
保育時間外でも保育者としての誇りと自覚を持った言動を心がけている	
幼稚園には自分自身のプライベートな生活を持ち込まないようにしている	
幼児や保護者との対応には、公平さを欠かさないようにする	
朝と帰りのあいさつは明るく親しみを込めてしている	
何かをしてもらったら感謝の気持ちを言葉などで表している	
園の消耗品や教材は節約して使い、後で使う人が使いやすいようにする	
服装、髪形、身だしなみなど、清潔感のあるものを心がけている	
〔義務〕	
自らの健康にも配慮し、爪が伸びていないかどうか等、保育をする上での安全性にも気をつけている	
子どもと保護者の顔や名前、性格などを覚えている	
職務上、知り得たプライバシーに関する情報などの秘密を守っている	
幼稚園の電話やコピー、紙や教材を私用に使っていない	
園の重要書類は持ち出していない	
教材、教具の管理、点検に気を配っている	
クラス内はもちろん、園内外の清掃や整理整頓を実行している	
現金の管理は間違いのないように行なっている	
締切りのある仕事や提出物は締切日をきちんと守っている	
教職員や園の批判を軽はずみにしていない	
2. 組織の一員としての在り方	
教職員全員でひとつのチームであることを意識している	
会議や打ち合わせは時間を厳守している	
他の意見を素直な気持ちで聞いたり、自分の意見を述べるができる	
自分の意見と異なる結果となっても議論の上決定したことは、協力し実行している	
会議のときは自分の意見や質問を前もって考えている	
子どものこと、クラスの出来事などで必要なことは園長や主任に報告、連絡、相談をしている	
当番や役割による仕事は確実にこなしている	
教職員全員と親しくつき合い、偏った人間関係を作っていない	
上司の指示、命令には責任を持って実行している	
上司や先輩に対しては敬語を用いて話している	
教職員や園の批判を軽はずみにしていない	
教職員のプライバシーについてもこれを他へ漏らしていない	
園に関することについてはみだりに、または不正確なままに他へ話したりしていない	
3. 保育の楽しみ・喜び	
幼児と会話をしたり遊んだりすることが好きである	
幼児のささやかな成長が理解できて、それを喜ぶことができる	
幼児と一緒に苦しんだり考えたりすることができる	
幼児と一緒に生活を創りだすことが楽しい	
特に配慮を要する幼児が望ましい方向へと変容していく過程に喜びを感じる	
4. まわりを感じ取れる感性・アンテナ	
幼児や教育に関する情報をたえずとらえようとしている	
幼稚園や幼児のことだけでなく、自然や社会の出来事にも興味がある	

幼稚園の仕事の他に、多様な趣味を持っている	
自然に対する感性を持ち、命の尊さを感じている	
地域のことに関心がある	

IV 保護者への対応

1. 情報の発信と受信	評価
クラスや子どもの様子、自分の考え方、保育のポイントなどをクラスだよりなどで知らせている	A
電話、連絡帳などで、緊急な連絡等を行なっている	
個々の子どもの様子は直接話をしたり、電話、連絡帳などを使って伝え合っている	
保育参観や保護者会を開いて子どもについて、保育について、家庭でのあり方について共通理解を得るように努めている	
場合によっては個別に保育の様子や子どもの様子を見てもらったり、保護者と話し合ったりする	
いつでも保護者と個別懇談が行なえるようにしておく	
自分の考えをきちんと話し、保護者の話を心を開いてよく聞く	
必要に応じて、ビデオ、写真、イラストなどさまざまな方法で分かりやすく伝える工夫をしている	
2. 協力と支援	
保護者からのさまざまな訴え、要望、意見については安易に受けたり、断ったり無視しないで、園長や主任、学年主任等に報告や相談をしている	
保護者の要望等を受け止めて実行する場合は、そのことの教育的な意義付けをはっきりとさせてからにする	
保護者への支援が可能な部分については園長の指導の下、教職員の合意の上で行なっている	
保護者の協力が必要な場合は、園長と協議し具体的な協力のあり方について、保護者と話し合っている	
3. 守秘義務の遵守	
保護者の住所、電話番号など個人情報の管理については園の方針にしたがっている	
個々の子どもの情報は口外していない	
保護者、家族の情報は口外していない	
4. 対応上のマナー・良識	
正しい日本語、ていねいな言葉と敬語を用いて語りかけ、相手の話も落ち着いてしっかりと聞いている	
親くなったからといっても、友達同士のような話し方をしていない	
電話は、相手が見えないために誤解が生じやすい。手短に、簡潔に要領よく、対話することを心がけている	
保護者の国籍、思想、宗教により、また子どもの性差、障害、個性差等によって区別、差別していない	
長期の欠席や入院等の場合は見舞ったり、園やクラスの様子を伝えたりしている	
園のすべての保護者に対し、親しみを込めたあいさつや会話を心がけている	
保護者からの依頼や伝言等については、メモをするなどきちんと対応している	
5. クレームへの対処の仕方	
保護者からクレームがあった場合は、まず謙虚にその話を聞き、園長に連絡、報告、相談している	
クレームの内容によっては教職員全体で検討し、共通理解の上で対処している	

V 地域の自然や社会とのかかわり

1. 地域の自然・人々とのかかわり	評価
地域の人々と親しくあいさつや会話を交わしている	B
地域の自然や主な施設の場所、交通機関、主な行事等について、ある程度理解している	
地域の自然や機関を指導計画の中で位置づけて活用している	
地域の自然や機関についてマップを作成するなど、利用しやすい工夫をしている	
2. 小学校との連携	
小学校の教育内容について理解しようとしている	
卒園した子どもの情報を得るように努めている	
地域の小学校の行事や公開事業に関心をもっている	
3. 地域への開放と支援	
地域開放や子育て支援について具体的な形や内容を理解している	

VI 研修と研究

1. 研修・研究への意欲・態度	評価
研修会や研究会には自己課題をもって進んで参加している	B
研修会や研究会に参加する場合は事前にその内容を確認したり、自分なりの考えをまとめている	
研修会や研究会では活発に発言している	
専門書や専門雑誌を読んでいる	
研究保育を参観するときは自分なりの課題と視点を持って観ている	
自分の保育については自己課題を持って計画と反省を行なっている	
自分の保育のあり方や悩みについて、他の教師や主任、園長と話し合っている	
他園の見学をしたり、公開保育を観てみたいと思う	
2. 教師としての専門性に関する研修・研究	
子どものみとりとその内面理解について研修・研究を行なっている	
指導計画の作成や記録の取り方、考察のあり方に関する研修・研究を行なっている	
環境構成・再構成のあり方について研修・研究を行なっている	
指導とかかわりのあり方について研修・研究を行なっている	
自分なりの幼児観・保育観の確立のための研修・研究を行なっている	
確立された幼児観・保育観について客観的に見つめるための研修・研究を行なっている	
保育者同士の協力・連携のあり方について研修・研究を行なっている	
自らの得意分野を確立するための研修・研究を行なっている	
良識・常識・義務・マナーなどに関する研修・研究を行なっている	
保育者への対応のあり方について研修・研究を行なっている	
3. 遊具・教材に関する研修・研究	
園の遊具や教材についてその特徴や基本的な使い方を知っている	
園の遊具や教材についてさまざまな利用方法について研究している	
園の遊具や教材について子どもはどんな使い方をするのか予測できる	
園の遊具や教材についてどのような使い方が危険かが分かる	
4. 園内の環境に関する研修・研究	
園舎の構造(平屋、二階建て、三階建て)や保育室・遊戯室の位置・大きさなどが持つ特質が、幼児にとってどのような教育的な意味を持つかについて理解している	
園庭や農耕栽培地、砂場、通路、池、かくれ場所などの位置、広さなどが幼児にとってどのような教育的な意味を持つかを理解し、保育に生かしている	
園地・園庭の樹木や草花の名前、季節による変化などを理解し、保育に生かしている	
園内の環境を、いくつかのまとまりや関連性を持たせて保育の計画・実践に生かすことができる	
5. 今日的課題に関する研修・研究	
子どもをとりまく様々な状況が変化してきていることについて学習し、何が問題であるか、背景・原因・実態はどうであるかについて理解したり、学習したりしている	
様々な変化の中で、幼児にとって何が問題であるか、幼稚園としてはそれに対してどのような教育を行わなければならないかについて考えたり学習している	
アレルギー、自立の遅れなど、最近多く見られる問題について理解している	
障害のある幼児に対応する保育のあり方を学習している。	
預かり保育や子育て支援のあり方・考え方について、学習している	
チーム保育について、その意義やあり方について研修・研究している	
幼小連携についてその意義やあり方について研修・研究している	
危機管理について、現状やあり方について研修・研究している	
6. 自らを高めるための学習	
趣味・人とかかわりなど、うるおいのある生活を心がけている	
保育の専門知識や技能のほかに趣味や読書、ボランティア活動等にも関心がある	
尊敬する人の話はぜひ聞きたい	
いろいろな人と意見交換し合いたい	